

讀賣新聞

2016年(平成28年)

6月28日 火曜日

36面

今回の参院選は、発足から3年半が経過した安倍政権が信任されるかどうかが焦点となる。いま、暮らしの場で、どんな課題が浮かび上がっているのか。まず、経済政策「アベノミクス」の現場を報告する。

焦点 参院選 2016

大阪市福島区で建設中の高層マンション「リバーガーデン福島」(総戸数850戸)。モデルルームは週末になると、年配の夫婦や家族連れで混み合う。部屋によっては希望が殺到し、20倍の競争率という。

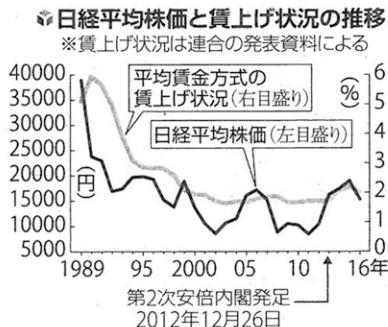
「リビングから大阪駅が見えるんです」。契約を済ませた男性(62)が、笑顔で新生活を描いてみせた。

男性は、大阪市内の運送会社の役員。持ち家はあるが、「老後は妻と広い家で暮らしたい」と、約7500万円する100平方㍍の部屋を購入した。

男性が1992年に作った会社は、バブル崩壊など荒波にもまれながら成長を続け、特に近年は好調となったから、顧客の新規開拓が進んだ。アベノミクスのおかげだと思う」と景気回復を感じている。

その感覚は、このマンションの事業主「リバー産業」

アベノミクス 明暗



モデルルームを訪れた夫婦。都心部ではマンション販売が活況を呈している(大阪市福島区で)= 笹井利恵子撮影

大阪市では、今、都心回帰の波も受け、大型マンションが競つように建てられている。不動産経済研究所によると、2015年の全国の発売戸数のうち、首都圏で51・8%、近畿圏で24・2%を占める。住居スペース1平方㍍あたりの価格は、全国平均で65・4万円と、バブル期に迫る。

同研究所の笹原雪恵・大阪事務所長は「安倍政権に

大阪市では、今、都心回帰の波も受け、大型マンションが競つように建てられている。不動産経済研究所によると、2015年の全国の発売戸数のうち、首都圏で51・8%、近畿圏で24・2%を占める。住居スペース1平方㍍あたりの価格は、全国平均で65・4万円と、バブル期に迫る。

同研究所の笹原雪恵・大阪事務所長は「安倍政権になつて、投資家が都市部の物件を購入して市場を引っ張ってきたが、英国の欧州連合(EU)離脱問題で世界経済の減速が懸念され、先は見通せない」と言う。

マンション建設ラッシュ

